

## 「鹿児島の太陽を浴びた夏」

真夜中の山陽道を走りながらふと初めて展覧会を開催した時の事を思い出した。杖をついた爺さんが芳名帳に住所を書かず「樂々の中に実はない」その一言だけ書き残し去って行った。あれから23年、「生きる事は行動する事」そう自分に言い聞かせ情熱だけで踏み出した一步。行く価値のある場所には便利も近道もなくLibido展に要した車での移動合計距離、13160km… 地球を真の球体と見なすと直径は約12730kmというのだから思わず笑った。

9月2日、僕等の夏を彩ったLibido展が皆様のお力で無事終了し最愛の仲間と共に今年7回目の鹿児島へ搬出に向った。振り返ればどれほど素晴らしい機会を頂いた事か。今回出展された作家や施設は自分の憧れであり、そこに関わる人達を僕は心から尊敬しているのだから。僕はその方々の生き様や眞の人間性、何より幸せを見つけ楽しさの中にいる彼等はこの社会や人々に生きる上で大切な事とは何か気づかせてくれると信じている。

Libido展は約4000人の方々にお越しいただいた。皆さんとの出会いやそれぞれに感じた事が今後形になる事を想像すると未来への夢が膨らむ。

鹿児島とLibido展は僕達にたくさんの事を教えてくれた。それはこの業界や一部の人の為だけではなく人間として永遠に大切にすべき原点だ。皆さん、しょうぶの門をくぐりませんか。木漏れ日とそよ風、蕎麦屋、パン屋、パスタ屋の路地で感じる優しい眼差し。芝生に腰を下ろすと伝わる人や物に対する最上級の敬意と感謝そして礼儀。Do my BEST、新しいものも古いものも共存し、共通の目標に向かい互いを認め高め合う姿勢。苦手な事が許され得意な事が活かされ誰もが必要とされている愛情と日常。「大らかにいきましょう！みんな仲良く！」不安が募る僕に声をかけて下さった方が理事長の福森悦子さんだと知った。力不足を痛感した時「HAPPYに行こうぜ！」園長の福森伸さんが背中を押してくれた。滋賀に戻り数日が過ぎた今、毎朝鹿児島の天気予報に目をやり気持ちが動く。その度に思い起す皆様への感謝の気持ちと学び。鹿児島は僕にとっても大切な人達がいる大事な場所となりました。真心と笑顔の大切さを教えてくれてありがとうございます。Libido展に関わって下さった皆さんに心から感謝いたします。

Libido展鹿児島実行委員長  
やまなみ工房 施設長 山下完和

